

## ☆父から娘へ 母となった娘から子へ☆

1992年、民間親善訪問団の一員として、パサデナ市を訪問された故栗原義則氏（前栗原工業株式会社社長）、その時以来、世代を重ねてずっと長年の交流を通して国際的な友情を育み、支援を続けてこられました。そのご家族が三世代にわたって交流を続けてこられた経緯など、娘の生方美奈子さんから興味深いお話を聞くことができました。（大津道雄）

パサデナ市の人たちと知り合ってから30年。ジェニファーさんたちとは、ずっと家族のような付き合いをしています。

私の父がパサデナ市に行き、ホームステイでジェニファー・ジョンソンさん一家にお世話になりました。これが私たち家族とパサデナ市との繋がりのはじめでした。一家が日本に来た時は、我が家でおもてなしをしました。一緒に過ごした時間で作られた思い出が、私たち家族同士の絆を深くしていきました。

そして、この一家を通して、たくさんの人たちと出会い、交友範囲も広がりました。

私も学生時代、ジェニファーさんの家に数ヶ月間ホームステイをさせてもらった経験があります。彼女は、隣町に住むお父さんやお母さん、そしてお兄さん、妹さん家族に会わせてくれました。家族団らんの中に入れてもらって毎晩話が盛り上がりました。滞在中旅行に行ったり買い物に行ったりもしましたが、何よりも彼女たちのおしゃべりがとても楽しかったのを覚えています。



両親とファーストホームステイ



時を経て、子どもとホームステイ

今ではなかなか会うことができませんが、家族の節目（誕生日、結婚、出産など）で近況報告をし合っています。出会った頃の連絡手段は電話か手紙しかありませんでしたが、今ではインターネットがあります。SNSで繋がり、投稿することでお互いの近況が分かるのです。そのアプリで連絡を取り合うこともできます。テレビ電話もできるので、会えなくてもコミュニケーションを容易に取ることができます。

父がジョンソンさん一家に出会ったときは、1歳半の赤ちゃんがいました。その赤ちゃんは、今では二児の母です。家族の喜びを一緒に日本から家族として分かち合っています。（生方美奈子）

### 編集 後記

暖冬と言われながらも、雪の寒い日もありましたが、当協会にはホットなニュースが！それは…「市民の日」大盛況！と4年ぶりの事業、「秦野市青少年訪問団・教職員海外派遣研修訪問団」の実施です。「市民の日」参加では、大根販売を通して地域の方々と英語で交流する温かい場面があり、パサデナ市訪問では、ようやく現地に行って交流をすることができました。現地での温かい歓迎は、青少年たちには忘れることのできない貴重な経験と思い出になったことでしょう。“ほっと”するようなホットなニュースに加え、今年6月には訪問団20名が「姉妹都市提携60周年記念演奏会」参加のため来秦！23日(日)午後2時からクアーズテック秦野カルチャーホールで演奏交流も行われます。パサデナ市の人々とのセッションと交流を、これを機会にぜひ、お楽しみください。（平岩正紀）